

第14回「日本語大賞」

テーマ 私が^{だいじ}大事にしている言葉

小学生の部 優秀賞 受賞作品

「生きる」

石川県
金沢市立小坂小学校
小学五年 杉本 賢太郎

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

最近、お父さんやお母さんから何か言われると、素直に聞くことができない。

お父さんに話しかけられた時、ちゃんと返事をせずに、つい反抗してしまった。だから、お父さんから厳しく注意されてしまった。僕の態度がとても悪かったのは、自分でも気がついた。それなのに、いつもは優しいお父さんから真剣に怒られてびっくりした。すぐに謝らないといけないって頭では分かっていたのに、僕の口からは、

「もうこの家から出ていく。もう生きてなんかいたくない。」という言葉が飛び出した。

お父さんはとても悲しそうな顔をしていた。

しばらくしてお母さんが仕事から帰ってきて、お父さんから僕が言ってしまった言葉を聞かされたそうだ。

僕と二人になった時、僕はお母さんから怒られると思って警戒していた。いつもはお母さんが怒ったら、お父さんの百倍怖いからだ。

それなのに、お母さんは何も言わずに僕をぎゅっと抱きしめてくれた。そして、

「今はお父さんやお母さんから色々言われるのが嫌だと思う時期だから、イライラするのは分かるよ。でもね、生きていたくないという言葉は簡単に口にしないでね。お父さんもお母さんも、おじいちゃんもおばあちゃんも、それから先生も友達も、大事に思ってくれている人がいて、そんなふうにいると知ったら、悲しむ人がたくさんいるんだからね。」

お母さんの話を聞いているうちに、ぽろぽろと涙が出てきた。

僕が生まれる時、お母さんはお産が上手くいかず、死を覚悟したらしい。もし、自分が助からなくても僕だけは助けるようにお父さんをお願いしていたそうだ。僕の命は僕のものだからといって、簡単になくしていいものではない。僕がつい口にしてしまった「生きていたくない」という言葉がどんなに悲しい言葉なのかを思い知った。

この先、辛いことや悲しいことを経験するかもしれない。だけど、どんなことがあっても、僕は「生きる」という言葉を大事にしていきたい。